

春秋

くらしき



備中国分寺

撮影者/片岡 一弘

令和七年、昭和百年
日本では五十年ぶりに、ノーベル平和賞の受賞。戦後八十年、核兵器廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会が受賞されました。人の住処の地球、それだけでなく、人は地球変動の自然の驚異にさらされています。平安でなければ、人は文化を享受する心身のゆとりさえも失います。目を離せない世相の中、それでも、自己の自分を見つめ、できることで世に関わり参りたいですね。その為に、実行と継続のエネルギーの炎を諦めず、燃やし続けて参りましょう。
今回も、皆さまのご活動をご紹介できることは、幸せです。これからも文化力により地域が活性化し、そこへ暮らす人びとの生活が豊かであります様、めぐり逢えます春に、感謝しつつ、皆さまのご健康での活躍を、お祈り申し上げます。

令和六年度倉敷市創作舞台育成事業
倉敷市民創作オリジナルミュージカル

「この道」池田遙邨生誕一三〇年記念遙邨物語

令和七年 三月二十二(土) 十三時半開演
三月二十三(日) 十三時半開演
会場 玉島文化センター大ホール
入場料【全席自由】
一般：一九〇〇円 大学生・高校生：一五〇〇円
中学生以下：一〇〇〇円 ※お席不要の未就学児無料



地域文化力発信、人繋がる力の結集
令和六年第三十九回倉敷音楽祭
倉敷市創作舞台育成事業は、十九年目を迎え、玉島文化センターにて玉島地域事業として「この道」を舞台上演し、ロビーにて「池田遙邨版画展」展示室にて玉島のおいしいが大集合する「玉島物産展」を開催します。
自然を愛し、旅に憧れ、生涯絵を描き続けた日本画家池田遙邨は、文化勲章を受章した倉敷市名誉市民。

玉島出身者として倉敷市民舞は玉島文化センターにて執り行われたご縁を頂き、同じ会場にて、七歳から上限なし一生青春の市民県民の皆さまたち六十八名が、地域応援隊の皆さまと力を結集させて、事業開催へと挑みます。

池田遙邨、ご存じですか?
倉敷市立美術館へ、生前七〇〇点を超える作品の寄贈があり、また玉島市民交流センターへも特設顕彰展示室が常設されています。
幼い頃より絵を描くことが好きで、当初は洋画を描いていましたが、日本画へ転向。本名は池田昇一、雅号は「遙邨」遙邨へ。この変化も舞台を観てくださいましたら紐解けます。笑顔でにこやかな遙邨スマイル、そ



に描いた「南郷の八月」は見事帝展に入選する。幸せ絶好調の頃、ムンクやゴッホの影響を受け、その後事件が次々起きる。大正十二年九月一日関東大震災、惨状へ駆けつけた遙邨は

の裏に、発想の独自性と大胆な構図、旅好きで昭和東海道五十三次を歩き描き仕上げ、またヒョウヒョウとした子どもの様な絵を描き、時に寂寥感漂う光と影の絵あり、そして晩年には山頭火シリーズと、夢中に情熱を傾け多種の画業を生涯描き続けた池田遙邨の情熱生涯を、遙邨作品と共に舞台へご紹介を致します。

あらすじ

一九一三年、名前は池田昇一、十八歳。福山での「絵画自作発表会」会場。大阪天彩画塾にて洋画を学んでいたが、そこで人生が変わる出会いがあった。一年後、昇一が描いた絵は、「十九歳天才洋画家現る!」と新聞で騒がれる。しかし喜びも束の間、兵役入隊となる。やがて除隊後、洋画から日本画へのゼロからの転向を決心する。雅号も遙邨に、心機一転京都へ。竹内栖鳳へ弟子入り日本画転向後

懸命に何枚も何百枚も写生する。描いた絵は：落選。師匠からの言葉に、京都の家も引き払い、ふる里、岡山・倉敷へ帰る。その後、初心を思い再び古里を後にし、京都へ挑みに行く。その後、物語はどの様に展開して行くのでしょうか?

順風満帆に見えて、波瀾万丈辛苦の浮き沈み。それでも命をかけて懸命に描く絵は「わたしの分身」と。絵を見てくれる人が「笑顔」になれるよう、歩みを留めず、遙邨らしい世界を求め続け、絵を描き続けた情熱の生涯。

昇一・七歳、遙邨・九十二歳、遙邨らしく歩き続けたその姿を遙邨絵画と共に、舞台へ描きます。

テーマ「あなたが懸命に生きることがきつと誰かの生きる力になる!」(この道脚本・演出・制作後藤田恵子)

倉敷市創作舞台育成事業

- 玉島実行委員会
実行委員長：守永 一彦
副実行委員長：猪木 直樹
副実行委員長：古市 了一
事業部長：中藤 取
広報宣伝部長：平井 俊光
事務局 長：小川 久美
監 査：伊藤 亘志
監 査：小野 雅生
音楽作曲・演奏：伊藤 祥子
演出補佐・出演：峰山 博志
歌唱指導・出演：藤原 香織
事業 統括：後藤田恵子

令和六年度 倉敷市文化連盟賞

さわやかな秋晴れの令和六年十一月四日、令和六年度の「文化連盟賞」と「文化連盟奨励賞」の贈呈式が挙行されました。

午前十時に始まった式典は、会長式辞、表彰状贈呈、来賓祝辞、受賞者謝辞で無事終了。式後は来賓の伊東香織市長を始め、ご臨席くださった方々と和やかに記念撮影を行いました。

〈文化連盟賞〉

岡本希根さん(絵画)



幼少期から絵を得意とし、八十歳を超える現在も制作を続けている。初めは風景画等の写実画を描いていたが、後に抽象画へ転向、行動展への出席を中心に精力的に活動し受賞を重ねる。

三十代では、行動展岡山支部の立ち上げや、巡回展を岡山へ誘致するなど岡山における抽象画の普及・発展に尽力した。

講師としても、写実画から抽象画まで生徒の個性を引き出す指導を行い、人柄も相まって多くの生徒に師事されている。自身の生徒とともに開催する「人ひと会展」は平成二十一年より開催、十六回を数える。

平成二十三年に出版された絵本

「すいんきよ」では絵を担当し、倉敷地域の伝統を次の世代へ伝えるなど、本市の地域文化の向上に大きく寄与している。

〈文化連盟奨励賞〉

猪木原美香さん(詩吟)



七歳より母の影響で詩吟に親しみ、以来ひたむきに発声や詩情感の向上に努める。

全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会で三回の入選を果たし、吟詠詩舞道界の将来を牽引する少壮吟士となつてからは、吟会や少壮吟士吟詠チャリティーリサイタル等の舞台、全国コンクールの審査員等、全国に活動の場を広げている。令和六年十一月十日に倉敷市で開催される全国吟詠詩舞道大会へも出演。

NHK Eテレ「夏にうたう」、NHK FM「邦楽のひととき」へ出演し、吟詠の魅力を広げ発信するほか、地元でも詩吟を広めたいという想いから、倉敷市と岡山市の劇場で後進の指導に力を入れており、吟詠の裾野を広げることに寄与している。

〈文化連盟奨励賞〉

宮澤 悟さん(絵画)



独立展、関西独立展、岡山県美術展覧会で数多くの賞を受賞し、平成二十六年からは三年連続で関西独立展の最高賞である関西独立賞を受賞、令和五年には独立美術協会の会員となる。

透明シートをまとった人物や静物を描いた作品では、リアルな質感や陰影を表現し、その独自の世界へ見るものを引き込む。

精力的に個展やグループ展を開催する傍ら、カルチャースクールやワークショップの講師としても活動し、美術に触れ、楽しむ機会を提供しており、今後の文化芸術の未来を担う人材として、活躍が期待される。



令和六年度 文化連盟行事

◆楽しんで催し◆

■第二十一回

くらしきジュニア伝統芸能祭 年々暑くなつていく夏の盛りりの八月二十五日。倉敷市芸文館では「第二十一回くらしきジュニア伝統芸能祭」が開催され、子供たちによる熱い舞台が繰り広げられました。



夏休みの恒例行事「くらしきジュニア伝統芸能祭」は、「我が国に残る貴重な伝統芸能をぜひ後世に残したい」という要望で倉敷市文化連盟が企画し、指導者の先生方の熱意によって始まりました。日舞・邦楽・吟詠・剣詩舞・民謡・民舞・太鼓など、多分野で育ちつつある若い芽に発表の場を与える『小さいけれど大きな意味のある舞台』と考えています。

この日のために、日々熱心に練習を重ねてきたジュニア世代の緊張の舞台に汗を握る思いで、時の経つのも忘れるほどでした。昨年二十周年を記念して、箏曲家

で作曲家でもある野村祐子先生に書いていただいた地元倉敷への愛が織り込まれた「倉敷えーとこ巡り」を出演者全員参加で演奏し、感動のフィナーレとなりました。

■第十九回くらしき市民茶会

(九月二十九日(日) 芸文館別館)



気軽に茶道文化に触れてもらうことを目的に開催する市民茶会。今回は、表千家流大西宗沙、裏千家淡交会倉敷支部の二つの流派による茶席が設けられました。天気にも恵まれ多くのお客さんが会場を訪れ、お茶を嗜みながら、楽しい時間を過ごしました。

■第二十六回市民謡まつり

(十月二十七日(日) 玉島文化センター)

市内の八つの民謡団体と五つの民舞賛助団体による民謡の祭典。当日は、知事選と衆議院選のダブル選挙と各地域の秋の祭り等が



声、そして、一糸乱れぬ整然とした、迫力ある津軽三味線の合奏など、大変見応えのあるものがありました。さらに、少年少女コーナーでは、幼

重なる中での倉敷市文化祭中心行事の一つ、「第二十六回市民謡まつり」が約三百名のお客様を迎えて、盛大に開催されました。

さて、本大会も、昨年引き続き「民謡・コラボで舞い上がれ」をテーマに取り上げ、民舞賛助団体の皆様と、「生伴奏と唄による」コラボを成功させるため、思いを込めてしっかりと届けさせていただきました。

本番では、緊張もあり、微妙に合わない場面も幾つかありましたが、素晴らしい舞・踊りの演技に支えて頂いて、大変意義のあるステージになりました。

大勢のお客様から、お心のこもったご声援を頂きました。ステージでは、シニアの皆さんの年季の入った「味わいのある唄の数々をはじめ、若手の皆さんの張りのあるエネルギー

稚園から高校生の子どもたちの、元気で澁刺とした唄声と、きりりとした眩いばかりの舞・踊りは、これからの民謡の更なる発展に繋がるものと確信しています。

私たちが会員一同は、これに甘んじること無く、来年「第二十七回市民謡まつり」に向けて、もう一歩前進してまいりたいと思います。

関係者の皆様の温かいご指導とご鞭撻を戴き誠にありがとうございました。

■第五十回郷土作家遺作展

(十一月十二日～十七日 倉敷市立美術館)

倉敷市ゆかりの物語作家の功績を顕彰する展覧会。今回は、日本やフランスでの学びを通じて多様な視野を身に付けられ、後輩の指導や地域の生涯学習活動の支援に大きく貢献し、倉敷市の美術文化の発展に多大な功績を遺された三宅幹一郎さんを紹介しました。



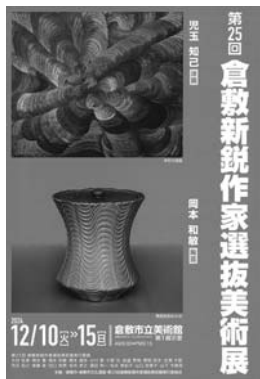
温厚な人柄で信望が厚く、倉敷公民館や倉敷市立美術館において、長年にわたり版画講座やパス

テル画講座の講師を務めるなど、本市の文化活動を支えられ、昭和五十六年には文化連盟賞をお贈りしました。

会場では、訪れた方々が三宅さんを偲びつつ、その世界観を心ゆくまで堪能していました。

第二十五回 倉敷新鋭作家選抜美術展
 (十二月十日～十五日 倉敷市立美術館)

新進気鋭の若手作家を紹介する展覧会。二十五回目となる今回は、洋画の児玉知己さんと陶芸の岡本和敏さんを紹介しました。



共に倉敷市出身で倉敷芸術科学大学卒業後、若手美術家を支援する岡山県のI氏賞大賞を受賞し、昨年度文化連盟奨励賞授賞の児玉さんと天神窯三代目で伝統的な技法を駆使しつつ、若い感性の繊細な造形美が光る岡本さん。前途洋々たる作家二人の全く違った領域の個性豊かな作品が織りなす見応えのある芸術空間は会場を訪れた方々を大いに魅了しました。



第三十二回倉敷市吟詠詩舞道祭
 (十二月二十日(日) 玉島文化センター)

吟詠と剣詩舞の十一流派が一堂に集う公演。

総勢三百五十人以上が一年間の練習の成果を存分に発揮し、演じ上げました。

各流派合同の企画構成吟では、「光り輝く自然と歴史」を吟詠詩舞道祭ならではの壮大なスケールで練り広げ、観客を魅了しました。

第五十七回新春かるた会
 (二月十二日新溪園)



新春恒例のかるた会。倉敷美観地区内の新溪園で行われました。参加部門は初心者向けの「ちらしどりの部」とA級、E級のクラス分けで行う「競技かるたの部」の二部門。

県内の愛好者を中心に、県外からも参加者があり、約六十名が参加して熱戦を繰り上げました。

創立三十周年記念倉敷邦楽日舞名流選の開催に向けて

倉敷邦楽日舞名流選 実光謙山

倉敷邦楽日舞名流選は平成五年十一月十三日(土)に当時の渡邊行雄市長、文化連盟の松枝喬会長のもと、倉敷市芸文館開館記念の第一回倉敷市邦楽・日舞名流選が開催されました。琴、三味線、尺八の美しい調べと長唄、清元、常盤津、義大夫の名曲をバックに舞う艶やかな日本舞踊。平成五年度岡山県芸術祭参加創作舞踊、混声合唱と邦楽器による「地歌萬歳」の舞台や、伝統芸能の発展継承を目指して、日本舞踊と箏・尺八による邦楽演奏のコラボレーションが披露されました。

以来平成十四年十一月に創立十周年記念の特別ゲストとして東京より花柳壽南海師匠をお迎え、創作邦楽「吾輩は猫である」を中田武志市長、文化連盟室山貴義会長のもと盛大に倉敷市民会館大ホールで開催されました。

創立二十周年記念は平成二十四年十一月、伊東香織市長のもと特別出演に岡山市出身の箏曲演奏家砂崎知子先生、尺八演奏家田辺頌山先生をお迎えして、「箏曲上弦の曲」を演奏、邦楽合同記念演奏として、箏曲「祝典箏協奏曲」を特別ゲスト及び邦楽出演者全員で演奏し



ました。

この度コロナウイルス感染拡大による度重なる中止をへて、創立三十周年記念倉敷邦楽日舞名流選開催に向けて準備を進めています。発足時は日本舞踊の藤間、藤、若柳、坂東社中など六社中が、邦楽では箏・尺八・長唄で七社中の十三団体がそれぞれの流派の発表に舞台を賑わしていました。三十年の歳月により、日本舞踊では四団体、邦楽は三団体の七団体による舞台を予定しています。創立三十周年記念では日本舞踊の藤間流若手の先生、また邦楽演奏家の特別ゲストをお迎えして、舞台上に華を添えて頂きたいと準備を進めています。

令和七年十二月十四日(日)倉敷市芸文館で開催を予定しています。是非ご来場の上ご声援を宜しくお願い申し上げます。

瀬戸内混声合唱団四十周年記念演奏会開催!

瀬戸内混声合唱団代表 畠山裕二

瀬戸内混声合唱団は一九八四年、混声合唱を通じて団員相互の親睦を図りつつ、音楽的教養を高め地域文化の発展に貢献することを目的に、児島公民館のサークル活動として発足しました。ちなみに略称を「瀬戸混」と申します。

隔年の定期演奏会の開催をはじめ、周年記念演奏会、岡山県合唱連盟や倉敷市合唱連盟による「合唱フェスティバル」の出演、倉敷市児島文化協会による「児島市民文化祭」の出演、「児島公民館祭」の出演など、年四～五回のステージを積極的にこなしています。

演奏する曲は合唱組曲、歌謡曲、唱歌、童謡、外国の曲など多岐に渡ります。

さて、数年前のコロナ禍では、練習に集まる事さえままならない日々が続きました。演奏会なども軒並み中止となり、合唱には大変な試練の日々が続きました。

瀬戸混の三十五周年記念演奏会もこの時期に予定していた中止となりましたが、二〇二二年十一月、他団の協力も得てやっと開催することが出来ました。



その為、時を待たず、二〇二五年七月六日児島市民交流センタージーンズホールにて「創立四十周年記念演奏会」を開催する運びとなりました。客席の定員に限りがありますが、ぜひお誘い合せの上ご来場いただければ幸いです。

今までの瀬戸内混声合唱団の活動に一方ならぬご支援・ご協力をお願いいたします。また、今後ともよろしくお願い申し上げます。



倉敷管弦楽団創立五十周年記念演奏会 第一八三回トヨタコミュニティコンサート in 倉敷 「クラシック音楽で踊る」

倉敷管弦楽団団長 菊池 東

一九七四年十二月一日、倉敷市民会館第五楽屋において創設メンバー数名が集い、倉敷室内管弦楽団(現・倉敷管弦楽団)の設立を宣言して以来、本楽団は五十年にわたり活動を続けてまいりました。

この間、団員数も常時約八十名を擁するまでに発展し、地域文化の発展に寄与してきたことを誇りに思います。この場を借りて、長年にわたり私たちの活動を支えてくださった倉敷市、倉敷市文化連盟をはじめとする多くの関係者の皆様に、心より深謝申し上げます。

二〇二三年四月、創立五十周年記念事業の一環として、ベートーヴェンの交響曲第七番に合わせて踊るといふ三枝成彰音楽監督の斬新な企画「トヨタコミュニティコンサート(TCC)」を、二〇二四年十一月三日に倉敷市民会館にて開催することが正式決定いたしました。

本公演では、有名ダンサー・振付家の指導のもと、倉敷シテイバレエの協力を得て、岡山県バレエ連盟加盟団体所属の若手ダンサーたちを対象にオーディションを実施。四十三名の選抜メンバーが二〇



二四年四月から約七か月間にわたり、クラシック音楽(ベート七)およびコンテンポラリーダンス(ポレロ、ベト七)の創作ダンスと稽古に取り組みました。

当日のプログラムは、ビゼー作曲「アルルの女」組曲第二番、ラヴェル作曲「ボレロ」、ベートーヴェン交響曲第七番で構成され、指揮にはNHK交響楽団特別コンサートマスターである篠崎史紀氏をお迎えし、またゲストコンサートマスターとして岡山フィルハーモニック団員の澤田しおり氏にご出演いただきました。

さらに、開演前にはハワイエにおいて交通安全啓発(夜行タスキの効果体験)やパープルリボン運動等のパネル展示を実施することで、公演の意義を一層深める試みを行いました。各地で数多くのイベントが開催される、文化の日

に、千三百十四名ものお客様にご来場いただき、会場は大いに賑わいました。来場者アンケートからも高い評価をいただき、この節目の公演が多くの方々に感動を与える機会となったことを大変嬉しく思います。

これを一つの契機として、倉敷管弦楽団は更なる発展を目指して邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



水害もコロナも乗り越えて… 真備町竹のオーケストラ、被災六年の歩み

代表 守屋益子

倉敷市真備町を代表する音楽グループの西日本豪雨からの六年間の歩みを報告します。

二〇一八年七月の西日本豪雨では、メンバーの自宅はもちろん活動拠点にしていたマービーふれあいセンターも一階の天井まで浸水し、保管していた大切な竹楽器も泥だらけになりました。一時はもう活動は続けられないとみんなが思っていました。しかし、沢山のボランティアさんが来てくださり一緒に泥だらけの竹楽器をきれいにすることができました。その後もメンバーで集まりメンテナンスを続けました。そして蘇った竹楽器を叩いて以前と変わらない音色が聴けた時、真備の竹を切り出しこの楽器を作ってくれた先人たちの想いが伝わり、もう一度演奏活動を始めようという心が動きました。

その後もたくさんのご支援をいただき、活動を再開することになりました。練習場所もなく困っていたところ、地元竹家具メーカーの工場の片隅を楽器置場兼練習場所として提供して頂けることになり、とても有り難かったです。被災翌年二〇一九年三月からは、真

備の復興支援をテーマとした様々なイベントで演奏を披露することができました。

しかし二〇二〇年に入り新型コロナウイルスの感染拡大で、そのようなイベントもことごとく中止となりました。そのコロナ禍の中でも少ない発表の機会を目指し、何よりもまずメンバーと音楽を楽しむために工場の片隅にある練習場所に集まりました。そして、二〇二一年六月には被災前に活動拠点としていたマービーふれあいセンターがようやく復旧し、こけら落としの演奏をさせていただきました。

二〇二三年には新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、四年ぶりに地域イベントが再開し、NHKのご自慢での地元紹介、NHK岡山番組「もぎたて！」出演、真備船穂商工まつり、ライフパークでの単独コンサート、敬老会など様々な舞台で演奏を披露しました。また、子どもたちの地域の文化活動が評価され、第四十八回山陽新聞桃太郎賞を受賞しました。

二〇二四年も恒例の倉敷地域のイベントや、矢掛町町制七十周年記



念事業の一環としてやかげ郷土美術館でコンサートもさせていただきました。また、六月には復興のシンボルとして「まびふれあい公園」がオープンし、ここを会場とした真備・船穂総おどり、竹林音楽祭、くらしき農業まつりでは大勢の地域のみなさんにご来場頂きました。

真備地区の復興はハード整備が一段落し、次年度は「復旧・再生期」から「創造期」へと進みます。私達も倉敷市真備町の特色ある文化の創造を目指し、災害を乗り越えた経験も伝えながら、地域の方々に楽しんでいただけるよう演奏活動を続けていきたいと考えています。

創立四十周年記念定期演奏会を終えて

倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ O.G. ヴァイオリン講師 河野園子

二〇二四年八月十八日、倉敷市民会館大ホールにて、現団員、OB・OG、指導者、関係者総勢一六〇名が参加した大合奏「威風堂々」が高らかに響き渡り、倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラの四十周年記念定期演奏会は盛大なフィナーレを迎えました。

一九八四年八月二十八日の第一回定期演奏会から始まった私たちの活動は、文化の町・倉敷を舞台に有名演奏家との共演や数々の名曲との出会いを重ね、節目ごとに中国やニュージールランドへの演奏旅行という貴重な経験も積んできました。これまでにプロの演奏家として羽ばたいた団員も多く、また音楽の道に進まなくとも、ジュニアフィルでの経験を通じて培った協調性や忍耐力を社会で活かしている元団員たちも数多くいます。さらに、成長したOB・OGが自ら子どもたちをジュニアフィルに送り出し、親子二世代で団員となる姿も見られます。

四十年間、私たちの活動は理事や保護者、関係者の皆様の支えによって成り立ってきました。その多大なるご尽力に深く感謝申し上げます。



今回の記念演奏会では、世代を超えて再会した仲間たちとともに音楽を作り上げ、まるで時間を遡るような特別な瞬間を共有することができました。このかけがえのない経験を胸に、次の世代へと音楽のバトンをしっかり繋いでいきたいと思っています。

令和六年度 倉敷市文化祭俳句大会

◎高得点賞(募集句)

- 倉敷市長賞
パスタ屋の
チョークのメニュー日脚伸ぶ
角南 英二
- 倉敷市文化連盟会長賞
貴婦人のやうな灯台風光る
中西八千代
- 倉敷市教育長賞
伴走の真白きロープ雲の峰
行藤 貴子
- 大会賞
冬すみれ這ひ這ひの子の目の高さ
山本 一穂
- 寒の月連夜の鉦のひびきけり
藤岡 穂和
- 噴水のとどまるところより落つる
白髪 節子
- 万緑や風と歩いて風となる
高村 薫青
- 後ろから鈴の音を足す遍路径
秋岡 宣子
- 鳴日和列は焼き立てクロワッサン
山本 一穂
- 婦人画報閉ちてそろそろ目刺焼く
もりおかちか
- 三つ編に秘めし初恋卒業す
田村千代子
- 音たてて春潮海へ帰りゆく
柴田 禮美
- 春光や池を飛び出す鯉の口
小倉登代子
- 道過る亀の力走梅雨晴間
小倉登代子
- ランナーの数だけ鼓動天高し
原田千恵子
- 秋灯下見えて通らぬ針の穴
山崎 敏江

